

オーディオセッション in Osaka 2017 報告(2017.11.11)

大阪ハイエンドオーディオショウ 2017 は 11 月 10 日から 12 日まで心齋橋ハートンホテルで、オーディオセッション in Osaka 2017 は 11 月 11 日から 12 日まで南船場ハートンホテルで開催されました。大阪ハイエンドオーディオショウには 11 月 10 日に、オーディオセッションには 11 月 11 日に行ってきました。以下はオーディオセッション in Osaka 2017 の報告です。

第27回
オーディオ
セッション
IN OSAKA
2017

日時 11/11 10:00～19:00
12 10:00～17:00

会場 ハートンホテル南船場

同時開催 大阪ハイエンドオーディオショウ 2017
ハートンホテル心齋橋・別館
11/10 11 12

日時 11/11 10:00～19:00 会場 ハートンホテル南船場
12 10:00～17:00

入場
無料

なお、オーディオセッション in Osaka 2017 の記事が下記に出ています。

<https://www.phileweb.com/sp/news/audio/201711/11/19248.html>

<TAD>



TAD のフルシステムの試聴を行っていました。

<フェーズメーション>



TAD のスピーカーを使用してアナログを聴かせていましたが、皮肉なことに TAD のスピーカーを使用しながら、TAD のブースより濃密で質の高い音が聴けました。
 <IO データ機器>



fidata のデモと fidata のダウンサイジング版のミュージックサーバーおよび fidata アプリの展示を行っていました。新しいミュージックサーバーは価格を抑えたものであり、fidata アプリは利便性を向上させ、fidata とのマッチングも良さそうなので期待が持てました。

<ヒノエンタープライズ>



ZYX のカートリッジを二つのスピーカーで聴かせていました。ヒットキットの板の振動版のスピーカーの試作品が目を引いていました。

<トップウイング>



青龍のカートリッジで再生しながら、M2TEK のフォノイコのデモを行っていました。盤を替えながらイコライザーカーブを替えて、どのカーブがしっくりするか、担当者自身がアナログに精通していて非常に分かりやすいデモでイコライザーカーブのマッチングの重要性を訴えていました。ホテルの電源環境を考慮して、仮想アースが使用され、その仮想アースの電源には次月発売予定の iPurifier AC が使用されていました。こういったものの助けを借りてか、システムの価格を超えた再生能力を出していたように感じました。

<TEAC>



タンノイのレガシーシリーズのスピーカーのデモを行っていました。また、ネットワークプレーヤーと価格を抑えた 10MHz のクロックジェネレーターが新しいものです。

<ESOTERIC>



アバンギャルドのスピーカーでデモを行っていました。

<ネットワークジャパン>



クアドラルのスピーカーのデモでしたが、防弾ガラスのラックやスピーカー台の効果もあって、滲みのない透明感のある音がしていました。

<ブライトーン>



SOtMのネットワークトランスポート sMS-200 と DAC のデモを行っていました。価格の割にはまともな音がしており、機能は非常に柔軟性に富んだものであって、

DSD は 11.2MHz までサポートし、外部ネットワークのストリーミング再生もハイレゾ対応のものまで可能とかで興味を引きました。使いこなすにスキルが要りそうで、関西方面では扱っている販売店がないのが難点です。

<CS PORT>



[シマムセンの試聴会](#)でも聴いていますが、そのときの印象が再現されており、クオリティの高さを印象付けていました。

<テクニクス>

デモの方は聴衆が多いわりには音は平凡な印象でじっくり聴くことはしませんでした。一方、つてを頼って、同行の M 氏とともに、開発陣やマーケティング担当者と同社の製品に関して意見交換を行ったり、製品の使いこなしの情報を入手できたことは有意義でした。

<まとめ>

概して大手メーカーより、小規模な中堅メーカーあるいは海外ブランドのディーラーの製品やデモ内容に聴くべきものが多かったという印象です。個人的には、トップウイングの iPurifier AC と IO データ機器の fidata アプリはすぐに導入したいものですし、音の規範としての意義を感じられるメーカーは、フェーズメーションと CS PORT のアナログでした。fidata のダウンサイジング版のミュージックサーバー、M2TEK のフォノイコ、防弾ガラスのスピーカー台、SOtM のネットワークトランスポート sMS-200 などにも興味を惹かれました。

大手メーカーでは、技術的な先進性を謳いながら、そのことが音に反映されておらず、おおがかりな宣伝の割には、音楽の文化的な側面が組織の中で埋没されているように感じます。自身の経験として学会のポスターセッションに足を運び、顧客の生の声を聴く機会を持っていたことを思い出し、オーディオでも一方通行のプレゼンテーションに終わらず、技術陣が顧客の生の声を聴くというスタンスでこういった機会を活用されることを期待します。

以上

